

## アジアは低成長を避けられるか

1980年代以降の米国経済に特徴的なのは債務の増大、家計の貯蓄率の低下、経常赤字の拡大である。金融機関のバランスシートの異常な急膨張を先頭に借金経済が加速した結果である。サブプライムローンの破綻を契機に、こういった金融膨張のメカニズムが壊れ、バランスシート調整が避けられなくなっている。

リーマンショック後の最も象徴的な経済の展開は、米国の貿易赤字の縮小と中国の貿易黒字の急減である。米国の貿易赤字は月間670億ドルから270億ドルに60%、中国の黒字は400億ドルから100億ドルに75%減少している。米国の過剰消費の是正が続けば家計の貯蓄率が回復し、中国の輸出が低下し続ければ、早晩、世界の主要な貿易不均衡は解消していくことになる。

米国政府や連銀がいかに抵抗しても、30年近い借金経済がもたらしたバブルの崩壊という問題を、1年や2年で処理することはできない。調整が長期化することは、わが国がバブル崩壊後、いまだ経済を回復軌道に乗せ切れていないことをみても明らかだ。

米国の経常赤字の解消が世界、とくにアジア経済にもたらす影響は大きい。97年のアジア危機以降08年までの11年間に、世界の外貨準備は1.7兆ドルから6.8兆ドルに5.1兆ドル増えたが、これをもたらしたのは、この間の米国の累計経常赤字5.9兆ドルである。外貨準備増加の4分の3は途上国が占めるが、途上国はこの外準の増加を裏づけとして成長通貨を供給してきたのである。

米国の経常赤字が解消してくると、こういった成長通貨の供給ができなくなってくる。これは対米輸出の増加が期待できなくなることで並んで途上国に極めて深刻な影響を及ぼす。アジアの時代だとか、新興国の時代だ、と浮かれてはいられないのである。金融ショックの本当の影響は来年以降に本格化するとみておくべきである。

(中前国際経済研究所 代表 中前忠)